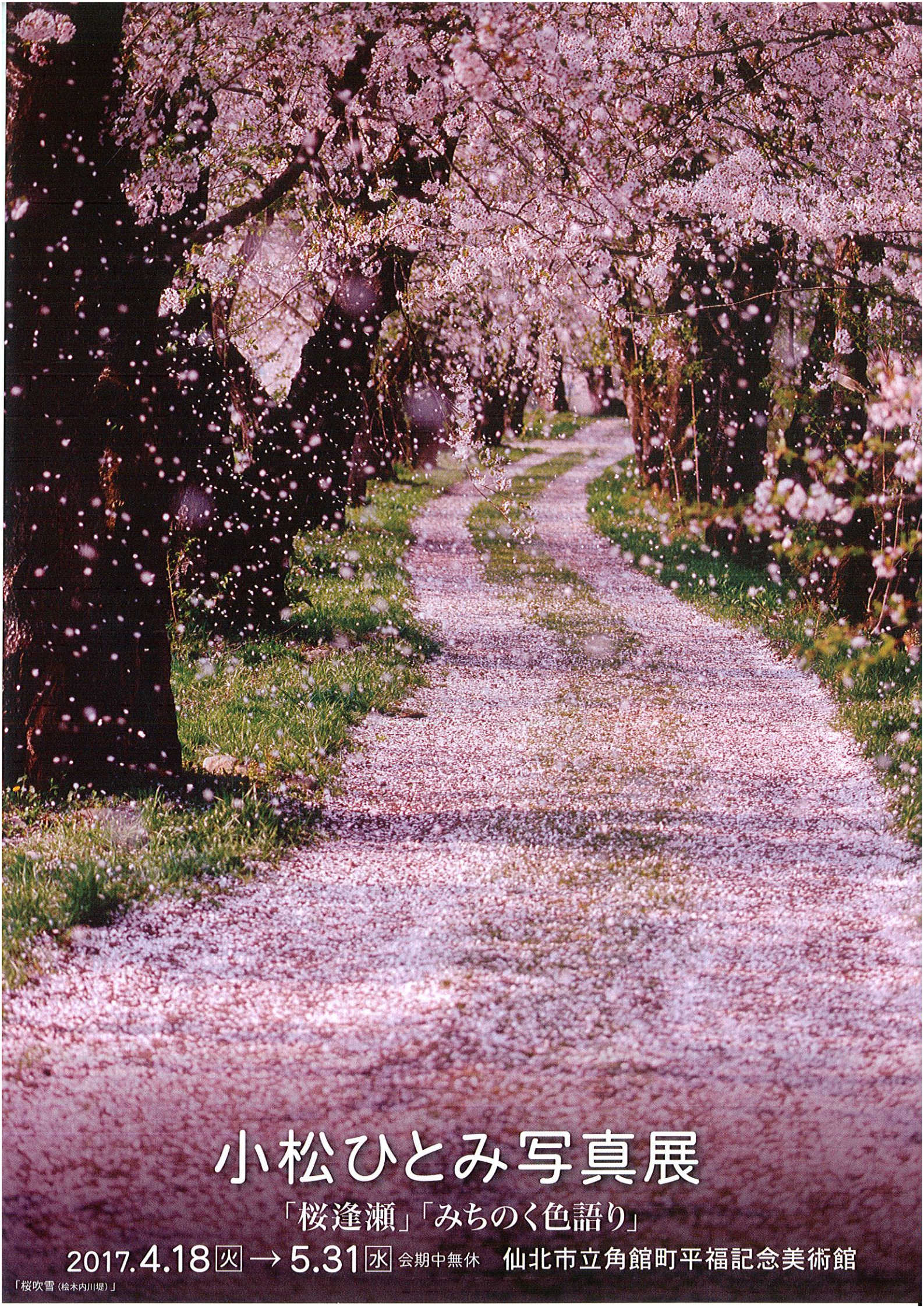




小松ひとみ写真展

「桜逢瀬」「みちのく色語り」

2017.4.18[火] → 5.31[水] 会期中無休 仙北市立角館町平福記念美術館

「桜吹雪（楡木内川堤）」

桜で賑わうこの季節に、小松ひとみさんの写真展を当美術館で初めて開催することとなりました。

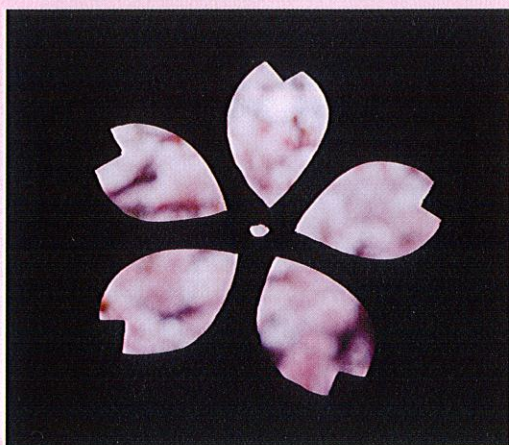
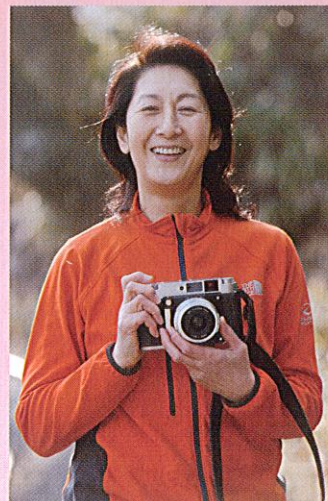
小松さんは昭和31年生まれ、仙北市角館町出身の写真家です。秋田県立角館南高等学校を卒業後、ユニチカに勤務しバスケットボールの選手として活躍しました。ユニチカを退職後、写真事務所「黎明舎」に転職して、同郷の写真家・千葉克介(ちばかつけ)氏に師事し、17年の助手生活を経て、カメラマンとしての第一歩を踏み出しました。

現在は秋田市に事務所を構え、1年中日本全国を飛び回り、精力的に制作活動が続けています。その写真は四季折々の美しい風景から、伝統を受け継ぎ守りながらものづくりをしている職人の姿など多岐に渡っています。

この度は、そのたくさんの作品の中から、ふるさと秋田を始め日本全国の桜の作品を中心に、みちのくの色をテーマに撮影された多彩な作品の数々を展示しました。

繊細で美しく、観る人の心に語りかけてくる小松さんの作品を、是非この機会にお楽しみください。

仙北市立角館町平福記念美術館



「桜逢瀬」

秋田県の角館町で生まれ育った私にとって、春の桜の時期は一年のうちでもっとも心躍る季節です。長く厳しい冬をじっと耐えたご褒美が満開の桜なのか、町中が桜の香りで一杯になります。

私の通った小学校は武家屋敷通りにありました。教室の窓から満開の桜を眺め、桧木内川沿いのグラウンドで春の運動会。桜吹雪のなかでの駆けっこを終えて席に戻ると、母のつめてくれたお重のごちそうの上に、一面に散り敷かれた花弁…。今でも宝物のように心に残っている光景です。

そんな環境で育ったからでしょうか、とにかく私は桜が大好きです。ここ数十年は桜前線を追いかけて北上する桜行脚が春の恒例行事になっています。桜の花を見ると、寝る間も食事の時間さえも惜しみ、夢中でシャッターを切っている桜狂いの私です。

見る人を感動させてくれる、そんな桜を一年かけて丹精こめて手入れを下さっている桜守の方達が各地にいらっしゃいます。私の写真を見て、普段は表に出る事のない、そんな方々が大切に育てた桜の素晴らしさの一部でも感じとっていただければ幸いです。



「みちのく色語り」

雪国で生まれ育った人間の色の感覚は、同じ日本人でも南の人たちとはきっと違うのではないかな?と思っています。良いか悪いかは別として、半年もの間雪の中で生活している私たちは雪の白でもたくさんのバリエーションをもってその色を敏感に感じているような気がします。同時に雪原に差し込む一条の光にもたくさんの色を感じ、微かな季節の移ろいも感じ取っているような気もしています。

日本人が掌中の珠として育んできた「日本の色」は語りきることはできないにしても、みちのくに住む私たちの自然から学んだ、みちのくの色を写真で語ってみました。

小松ひとみプロフィール

1956年秋田県角館町生まれ。秋田県立角館南高等学校卒業後、(株)ユニチカバスケットボール部に在籍。

1983年から千葉克介氏に師事。

1999年に独立し、各種雑誌、カレンダーなどで風景写真を中心に作品を発表。主に北東北の四季・花をテーマとし、そこに生きる人々・職人・温泉・郷土料理といったジャンルにも目を向け撮影

2008～2013年常設ギャラリー「ぶかぶ館」にて作品を常設展示。

2010～2011「桜逢瀬」写真展巡回展開催「仙台・東京・札幌・秋田・長野」

写真集に「光彩」(カッパンブラン刊)がある。

仙北市立 角館町平福 記念美術館

〒014-0334 秋田県仙北市角館町表町上丁4-4
TEL.0187-54-3888 FAX.0187-54-3890

会期中無休

時間/午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)

入館料/一般(高校生以上)300円 小人(中学生以下)200円 ※仙北市民は無料

★桜まつり期間中駐車場は有料となります。



展覧会初日(4月18日 午前9時30分～)は小松さんによるトークショーを開催します